



農地再生レポート通信



発行：福島県耕作放棄地対策協議会 編集：福島県農村振興課 TEL024-521-7415 FAX 024-521-7545 E-mail:nosonshinko@pref.tukushima.lg.jp



今季のさわやかリフレッシュ



令和3年度遊休農地の再生利用のための事業体系

農地は食料を育み地域環境を豊かにする有益な資源ですが、遊休化しはじめると、あっという間に雑木等が生い茂り、本来の機能を生かすことができず、また、再生しようとしても経費が年々かさむようになっていきます。所有者等が耕作できなくなった農地は、いち早く地域での話し合いや農業委員会などを通じて利用調整し、地域の担い手となる方に引き継がれることにより、有効に活用されることが重要です。

県では、地域の農地利用に中心的な役割を担う市町村等が、地域の実情をとらえて「農地再生計画」を策定し、農業者等が遊休農地を引き受けて再生活用する取組などにより、遊休農地の解消を進めます。

県事業

1 遊休農地活用推進事業

推進、普及・啓発活動

- 遊休農地の活用を進めるため、市町村が実施する荒廃農地の調査、農地法の措置に関する支援（制度の周知、理解の促進及び指導）
- 事例発表会の開催等による啓発活動や優良事例の情報発信

2 (新)遊休農地等利用調整手法調査・実証事業

地域での利活用に向けた手法の確立

- 担い手への利用調整において、地域ぐるみの課題解決を行った事例など、農業委員会や市町村等が実践している遊休農地等の利用調整に係るノウハウ（手法）を調査・分析し、さらに類型化してマニュアル化するとともに、その手法をモデル地区で実証しながら、効果的な手法を普及する。（委託）

3 (新)遊休農地等再生対策支援事業

再生利用による解消

- 遊休化した農地を再生利用するための雑木除去等の費用補助
- 条件改善整備のための暗きょ排水、客土等の費用補助

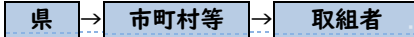
【補助要件】

10a当たり3万円以上の経費を要し、かつ事業費200万円未満（1集落）の場合

※集落の範囲は、農林業センサス農業集落境界による

【補助率】 定率1/2以内（補助上限100万円未満）

【補助の流れ】



国事業

農地整備等と併せて荒廃農地の解消を実施

大規模(5ha以上)な基盤整備の場合

- 各種の基盤整備事業

事業費200万円以上、受益者2者以上の場合

- 農地耕作条件改善事業【国、県】

荒廃農地の解消・発生防止のための簡易な整備により担い手へ農地集積を図る場合

※農地中間管理事業の重点実施地区に指定

【補助率】 定率助成 1/2等

地域・集落の共同活動で遊休農地の発生防止、解消を実施

- 多面的機能支払事業【国、県】
- 中山間地域等直接支払事業【国、県】

地域ぐるみの話し合いを通じ、農地や地域資源の有効活用による土地利用の最適化を実施

- (新)最適土地利用対策(農山漁村振興交付金)(案)【国】(※実施内容は未確定)

・専門家を入れた話し合いや地域の特性を活かした整備計画の策定(※計画策定は必須)

・水田の畑地化や高収益作物の導入等に係る農地の簡易な整備

・粗放的な利用にかかるモデル的(生産性検証)な取組に対する支援

【補助率】 1/2以内、定額等 【実施期間】 2～5年間

地域の話し合いを利用して「遊休農地」の利活用を図りましょう!

～参加者全員の納得を得ることに重視した、「ファシリテーション」を活用したワークショップ形式の会議を地域の話し合いに活用してみたいかがでしょうか～

それって、どんな会議ですか?

昨年、平田村農業委員会の主催で農業委員・農地利用最適化推進委員を対象に「遊休農地の活用について」をテーマに、「ファシリテーション」を活用したワークショップ形式の会議のなかで、進行役として最も重要な役割を担うファシリテーターのスキルを学ぶ研修が行われたので紹介します。

「ファシリテーション会議」は、これまでの会議と違い、**参加者全員の納得を得ることを重視**しているところで、進行役(ファシリテーター)に**必要なスキルも、ポイントを押さえれば誰でも身につく**というものです。

研修会では「遊休農地を活用しよう」をテーマに話し合い、活用案を決めるまでの過程をとおして、ファシリテーターのスキルである「自由に意見が言える場の雰囲気づくり」「全員の意見の引き出し方」「主体性の引き出し方」などを学びましたが、その習得はそれほど難しくはないと実感しました。

ぜひ、皆さんの地域で「遊休農地」の活用方法を決める話し合いなどに取り入れてみてはいかがでしょうか。

なお、ファシリテーションを活用した会議の詳細内容は、福島県農業会議ホームページ※「再生困難農地の利活用検討について」に掲載していますので参考にしてください。

※<http://www.fnkaigi.com/field/field-2.pdf>

【ポイント】 これまでの会議との違い

これまで

事務局が作成した企画を説明(説得)し事前に想定した落としどころに議長が誘導し、結論へ導く会議

◎決めることが最優先で進み、参加者は**納得感が得にくい** ↓

ファシリテーションを活用した会議

会議の目的を「結論を出す」ことから「参加者が納得する」ことに重点を置く **合意形成型の会議**

◎楽しく、自由な雰囲気のなか、発言できて参加者は**納得感アップ** ↑

ファシリテーター役は (議事進行や会議のセッティングなど)

会議を引っ張ったり、意見を整理したりせず、中立的な立場から会議を支援する。

◎ファシリテーターのイメージを表す言葉

教えない、引っ張らない、目立たない、リードしない、引き出すなど

●研修会の様子



“口も軽やか”で

付箋になら気後れせず意見がだせる～



●遊休農地の活用方法として だされた意見

1. オートキャンプ場
2. ふれあい牧場、放牧
3. ぶどう栽培、ワイナリー

言いたいことはいえたし、みんなで決めた結論には納得です～

編集後記

食料生産や環境の保全… “私たちの生活の安心や安全なくらしに直結することがら” との思いを強くしているこの頃。何かできることはないか、みんなで考えるテーマですね。

※今後「農地再生レインボー通信」の配信を希望される方は、nosonshinko@pref.fukushima.lg.jp までご連絡ください。